

# 平成29年度 施政方針

平成29年3月10日

吉野町長 北岡 篤

## 【はじめに】

本日、ここに平成29年第1回吉野町議会定例会が開催され、平成29年度一般会計予算をはじめとする各議案のご審議をお願いするにあたり、私の町政運営に向けての所信の一端と、新年度の主な施策の概要について説明申し上げ、町民の皆さま並びに議員各位のご理解と、より一層のご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

まずはじめに、議員の皆様におかれましては、この度の任期満了に伴う町議会議員選挙において、町民の皆様からの信託を受け、当選の栄に浴されましたこと、心よりお慶び申し上げます。山積する行政諸課題の解決にむけて、ご活躍されることを期待申し上げますと共に、今後の町政運営に対し、ご理解ご協力並びにご指導を賜りますようお願い申し上げます。

## 【平成28年度を振り返って】

昨年は町制60周年の節目の年であったことから、記念の行事やイベントを開催するとともに、協賛事業として、町民の皆様による実行委員会などを通じて、さまざまな催しを実施していただきました。

平成28年4月に、「森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～」が日本遺産の認定を受けたことを皮切りに、60周年の記念すべき年を「木育元年」として、ウッズスタート宣言を行い、吉野町で生まれた赤ちゃんに吉野材で製作したおもちゃをプレゼントする「ファースト トイ」のプレゼントや、多くの親子に木のおもちゃとの出会いの場を創る「木育キャラバン」を開催しました。

また、11月3日に開催した記念式典では、町の木・花・鳥・魚を制定するとともに、「木のまち吉野 未来宣言」を行い、木育4ヶ条として吉野材の認知拡大・情報発信や木育を推進し、木と触れ合うことができる環境を吉野の誇りとし、これからも守り続けていくことを誓ったところです。

来る3月11日のファイナルイベントでは、吉野町ゆかりのゲストを迎え、「町の歌」と「町民憲章」を披露する予定です。

## 【国の経済状況及び予算の動向】

我が国の経済状況は、アベノミクスの4年間の取り組みの結果、雇用・所得環境が改善し、緩やかではありますが回復基調が続いています。しかしながら、イギリスのEU離脱決定や新興国経済の減速、新大統領が就任したアメリカの動向など、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動による弱さも見られ、それに伴い国内経済についても個人消費や民間の設備投資等は力強さを欠いています。

国は、「経済再生なくして財政健全化なし。」を基本とし、経済政策の円滑かつ着実な実施により内需を下支えするとともに、民需主導による持続的な経済成長と、地方創生、国土強靱化、女性活躍の推進など、国民一人ひとりの希望の実現を支え、将来の不安を払拭し、少子高齢化社会を乗り切るための「一億総活躍社会」の実現に向けて、さまざまな施策を展開しているところです。

町政運営におきましても、我が国経済の動向、地方創生の動きを十分注視するとともに、今までの取り組みの延長線上に留まることなく、各施策・事務事業の評価と改善に努め、中長期的な観点から健全な財政運営を進めていくことが求められています。

## 【町財政の現状と課題】

本町の財政状況は、人口減少や少子高齢化の更なる進展により、厳しい状況が続いています。

歳入では、その半分近くを占めている地方交付税は、平成27年に実施された国勢調査の結果を受け、減少傾向にあり、また、自主財源の根幹をなす町税収入においても、引き続き厳しい状況が続くことが見込まれます。

一方、財政状況の柔軟性を示す経常収支比率は、平成27年度決算で93.0%と前年度の98.2%と比較して改善し、ほぼ県内市町村の平均水準となっているものの、全国平均の90.0%には届いておらず、財政状況は依然として柔軟性を欠き、扶助費や物件費、補助費などの経常的な歳出は引き続き増加傾向にあることから、更なる町政運営のスリム化が必要であることを示しております。

町政運営のスリム化につきましては、各事業の規模や対象者に応じて、町単独で実施した方がよりきめ細やかな住民サービスが提供できる場合と、国や県、近隣市町村等と連携して実施した方が、より効率的で質の高い住民サービスを提供できることが見込まれる場合について、今後も各事業を推進するにあたり、その手法について検討を行ってまいります。

「いのちが輝き 笑顔あふれる吉野町」の実現に向けて、第4次総合計画を着実に推進するとともに、「吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に

掲げた4つの基本目標を実行し、将来にわたり持続可能な町財政の基盤を構築するため、行財政改革を推進するとともに、行政評価の結果を十分に検証し、「最小の経費で最大の効果を挙げる」効率的な行政運営を目指します。

#### 【平成29年度予算の基本方針及び重点事業等】

私の政策の基本姿勢は、明るく、楽しく、美しい吉野町を創るということでございます。

60周年という節目の年を経て、将来の吉野町の姿を今後も「いのちが輝き笑顔あふれる吉野町」とし、今まで進めてきた施策を振り返り、「選択と集中」の観点を持ってその実現に向けて取り組んでまいります。

また、町内外の有用な人材を積極的に確保・養成し、「ひと」が「しごと」をつくり、「まち」に活力を生み出す。そして、「しごと」が「ひと」を呼び込むという好循環を生み出す仕組づくりを進めていきます。

それでは、新年度予算の基本方針並びに町政運営の概要、重点事業等について、「第4次吉野町総合計画 後期基本計画」の重点プロジェクトである「吉野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4つの基本目標に沿って、一般会計を中心にご説明いたします。

## ○基本目標 I

～地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する～

町内外にかかわらず、「産・官・学・金・労・言」との連携により、吉野の歴史、産業、文化について更に見つめ直し、研ぎをかけ、魅力ある地域産業に発展するような取組を行い、起業の意欲を向上させ、地域で活躍する人材を育成し、安定した雇用を創出するとともに、次の60年を担う若者が「働きたい。住みたい。」と感じる職場環境の創出と住環境の整備を図ります。

「木のまち吉野未来宣言」で掲げている木育4ヶ条の「①吉野材の魅力の認知拡大・情報発信、②吉野材の魅力に触れる機会の創造、③まち全体で木のある暮らしを表現、④未来を担う子どもたちの地場産業への誇りの醸成と郷土愛の育み」を実現し、吉野材の生産量、需要の拡大並びに雇用の創出を図るため、「木のまちプロジェクト推進事業」として、さまざまな取組を行います。

昨年度に完成し、2月からその運営を開始した吉野材の魅力発信拠点施設「吉野杉の家」は、指定管理者、木材産業関係団体並びに県等と連携し、その有効活用に努めるとともに、この施設だけでなく、町内の公共施設等でも吉野材を活用して木質化を図り、木の魅力に触れていただく機会を創造するとともに、木育推進の拠点としても活用していきたいと考えています。

## ○基本目標Ⅱ

～地域の中で安心して暮らし続けることができるまちづくり～

「吉野町まちづくり基本条例」の基本理念に基づいたまちづくりを進め、町民の皆様が安全・安心に暮らし続けることができるまちづくりを進めます。

まず、医療分野においては、平成28年4月に南奈良総合医療センターがオープンし、吉野病院と4月に開院する五條病院と共に町民の皆様の安全・安心を確保することができましたが、まだまだ課題も多くあり、今後もその運営体制等について、検討・改善等を進めてまいります。

その課題の一つである、南奈良総合医療センターへのアクセスについては、4月から近鉄大和上市駅でスマイルバスから「ゆうゆうバス」に乗り継ぎができるよう、準備を進めています。

防災分野においては、引き続き各地区の防災体制を強化するため、自主防災組織の活動並びに地区防災計画の策定支援を行います。

地域活動の支援については、昨年6月に国栖地区自治協議会が組織されたところですが、中荘地区でのまちづくり協議会、上市地区でのかみいち未来会議など、各地域での活動が活発になりつつあり、町としても地域担当職員制度を活用し、その活動を引き続き支援します。

また、地域における女性の活躍推進の第一弾として結成された、吉野町女性消防団は、女性ならではの視点による、きめ細やかな防災力の向上が期待される所であり、更なる団員の増員を図りたいと考えています。

高齢者福祉対策については、「高齢者生きがいつくり事業」として、高齢者の方たちが年に1回楽しんでいただくための敬老の日フェスティバルを町老人クラブ連合会と協力して開催します。

また、買い物や通院等で容易に外出でき、地域活動や社会参加の機会を促すため、町内の75歳以上の方が移動の際にタクシーを利用される場合、その料金の一部を補助する「高齢者移動支援事業」を新たに始めます。

町老人福祉センターの利活用については、運営を町社会福祉協議会に委託するとともに、施設の改修に向けた取り組みを進めます。平成29年度は耐震診断、耐震工事設計、並びに施設の改修工事の基本設計を予定しています。

生活環境の整備については、昨年度から各家庭のゴミの戸別収集を段階的に開始していますが、さらにきめ細やかなゴミ収集サービスを実施します。また、ゴミ処理についても吉野郡内の3町4村で構成する「さくら広域環境衛生組合」で、安定的かつ効率的なごみ処理施設の建設を進めます。

### ○基本目標Ⅲ

～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～

吉野の豊かな自然の中で、若い世代が「吉野で子供を生み、育てたい。」と住む場所として選び、自らも吉野の良さを発信してもらえるようま

ちづくりを進めます。

「ふるさと吉野定住促進奨学金貸付制度」や「子ども医療費の無料化」などの、町独自の子育て世帯への経済的な負担軽減施策を継続して実施するとともに、平成29年度からは、中学生の通学バス使用料の一部を免除するとともに、町内の高校生の通学に係る費用の一部を助成します。

教育行政の推進につきましては、「ふるさと吉野への郷土愛、愛着心あふれるひとづくり」という教育理念のもと、ふるさと教育、幼小連携事業や小中協同授業等を推進します。これらの取組を通して連携を深め、園小中一貫した教育の創造と今後の町の教育について方向性を定めていきます。

また、乳幼児から中学生まで、園・校舎をはじめとする施設に吉野材を積極的に活用した木質化を推進し、吉野材に触れ、学ぶ機会を創造するほか、町の公共施設の木質化を進め、町民のすべての皆様が吉野材の魅力を再認識いただけるような、「木育」を進めていきます。

#### ○基本目標Ⅳ

～新しい人の流れをつくる～

吉野の良さ・ライフスタイルを知り、好きになってもらえるような情報発信を展開し、定住・移住という新しい人の流れをつくります。

日本遺産につきましては、吉野郡8町村に広がる自然林や人工林の美しい景観やその中で育んできた文化が、域内の住民の方々に他に誇れる

素晴らしいものであるということを再認識していただくことが重要です。そしてこれらを全国に情報発信することが、交流人口の増加、過疎に苦しむ地域に活力を与える一助となるものと考えます。

今後も8町村が協力し、新たな観光ルートを開発するなどの観光客誘致を進め、1次産業の6次化を図り、地域の活性化を目指しています。

「観光力向上事業」としては、平成28年度に実施したマーケティング調査の結果を反映した吉野町観光振興計画を策定するとともに、外国人向けには、パンフレットや案内看板の外国語表示などの観光案内施設の整備、F1層と呼ばれる20～30代の女性向けには、新たな切り口による吉野ブランドの認知向上のためのプロモーション、また若年層向けには歴史観光資源の情報をマンガというわかりやすい表現で情報発信を行うなど、さまざまな事業を展開します。

また、観光施設の整備についても、来訪者の情報収集のための Wi-Fi 環境を整備するとともに、公衆トイレや遊歩道などの老朽化施設の改修などを進めます。

「定住促進住宅新築事業」については、新年度においても新たに6戸程度の整備を進め、今後も吉野材の利用拡大と若年層を中心とした定住促進のための本事業を継続して行きたいと考えており、併せて現在実施中の「住宅リフォーム助成事業」、「住宅新築助成事業」、「空き家流動化対策補助制度」を引き続き実施し、定住促進に努めます。

2020年に東京でオリンピック、パラリンピックが開催されますが、その翌年には「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が開催されることとなり、カーヌー競技の開催地として津風呂湖が選ばれました。選手、競技役員はじめ多くの皆様が来町されることから、吉野町の魅力を世界中に発信する絶好の機会であると期待しています。2021年5月の開催に向けた準備を新年度から進めていきます。

また、長年の課題であった旧国栖小学校の跡地利用については、昨年度立ち上げられた国栖地区自治協議会で、協議・検討された結果、体育館と幼稚園舎は耐震改修工事を行い、校舎の解体後の用地には多目的に利用できる施設の整備を進めていきます。この施設の具体的な形については、地元ができる管理・運営の計画も併せ、国栖地区自治協議会と共にさらに議論を深め、まとめていきたいと考えています。

行財政改革に関する取組ですが、健全な財政基盤の確立なくして「総合計画の実現」などを語ることはできません。平成27年度に後期基本計画策定と併せて財政計画を策定しましたが、国の経済対策や各施策の動向並びに本町の今後の施策展開を見据え、必要に応じて見直しを行いながら、財政面から見た進捗管理を行わなければなりません。

また、町の全ての事業について事務事業評価並びに施策評価を行っておりますが、更に各施策や事業の「選択と集中」を図るため、外部評価の

導入に向けた取組をはじめます。

町の組織機構については、昨年7月の飯貝庁舎の暮らし環境整備課の再編に続き、本年4月には総合政策課に協働推進課を統合し、多様化する行政ニーズに迅速かつ的確に対応できる体制を整えるとともに、町づくり基本条例に基づき、自治協議会等の地域コミュニティの組織の強化を図り、地域資源や地域の絆を活かした持続可能なまちづくりを進めます。

また、職員の地域担当制度についても、今までの成果と課題を検証し、必要に応じてその仕組みを改善しながら、地域担当職員が町内の各地域に寄り添い、課題解決や地域の実情に応じた施策を展開します。

以上が、私の平成29年度における町政運営に対する基本的な考え方と主な事業の概要であります。

#### 【当初予算の規模】

平成29年度当初予算の規模は、

一般会計 5,757,000千円、対前年度比 5.57%増

特別会計 3,250,400千円、対前年度比 41.41%減

企業会計 562,160千円、対前年度比 73.90%増

合計 9,569,560千円、対前年度比 15.49%減

となっております。

提出致しました各会計の予算案の概要につきましては、担当参事から、また、その詳細については予算決算特別委員会で各担当課長等から、予算事業の内容について説明させていただきます。

【むすび】

議員各位におかれましては、今後とも尚一層のご指導とご支援をお願い申し上げますとともに、提出致しました平成29年度予算案をはじめとする諸案件につきまして、ご審議の上、ご賛同を賜りますようお願い申し上げ、平成29年度の町政に臨む、私の所信と致します。